

今週のメニュー

■トピックス

- ◇「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム」
— 東京大学で開催決定！ —

■随想

- ◇ブルキナファソ旅行記（1）—ブルキナファソってどんな国—
一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

- ◇「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム」
— 東京大学で開催決定！ —

日本の住宅は、断熱気密性が悪いこと、平均30年で壊してしまいヨーロッパのように次世代に引継ぐ住宅の少ないことが大きな問題点といわれています。

3・11の東日本大震災後、耐震、省エネがクローズアップされ住宅の性能が見直されるようになってきています。もちろん、福田首相から打ち出された200年住宅も忘れてはならないことです。

このような背景の中、塩ビ工業・環境協会では、志を共有する12の関連業界団体に協賛、国土交通省、経済産業省、日本建築学会、日本建築士会連合会、建築研究所に後援いただき、(独)建築研究所の坂本理事長をコーディネーターとした「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム」を東京大学で、11月12日に開催することにいたしました。

ここで言うビルディングエンベロップとは、「建物を包むもの」いわゆる建物（今回は、特に住宅）の外皮（外壁材、断熱材、窓、屋根等の外部に接するもの）を指します。

現在、太陽光発電や高性能な設備機器を併用したスマートハウスが話題となっていますが、いくらエネルギー効率の良い設備機器を導入しても、外皮部分が悪ければ熱の出入りが多く、快適な住環境を維持していくためには、エネルギー消費が余分にかかってしまうので本当の意味での省エネは出来ません。最初に外皮を整えた上で、スマート化していくことが最良の省エネと考えています。また、こうした建物がコールドドラフトなど温熱環境を解消してヒートショックなどの「健康環境品質」の向上を果し医療費の削減にも繋がるはずです。

もう一つとして、次世代に引継げない住宅の問題があります。なぜ日本の住宅は、約30年で壊されてしまうのでしょうか？ デザイン、構造、住環境、建材の寿命・・・？ 建築家の目で、ヨーロッパの住宅と比較した時、景観と住環境の違いなどが思い当たります。



[案内書&申込書
ダウンロード](#)

上記の問題点を解決すべく第1部では、それぞれの分野の著名な先生方に研究成果等の講演を頂きます。環境の立場から北海道大学の羽山教授に「健康と安全を支える住環境」、材料の立場から東京大学の野口准教授に「外装材のサステナビリティ」、計画、施工の立場からミサワホーム総合研究所の栗原取締役「スマート化における住宅の基本性能の重要性」、についてお話いただきます。

第2部では、アーキキャラバン建築設計事務所の神田主宰を加え、それぞれの立場からビルディングエンベロップについて自由に考えを述べて頂き、引き続き上記の問題点等を、坂本理事長を中心に討論いただく予定にしています。

このシンポジウムですべてが、解決するはずもありませんがこうした思いや考え方が、皆様の一助となればと思います。

「継続は力なり」という言葉がありますが聴講して頂いた方々に共鳴して頂き、次へと進みたいと考えています。

■ 随想

◇ブルキナファソ旅行記（1）－ブルキナファソってどんな国－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

また、アフリカ旅行記の季節がやってきました。今年には昨年引き続き、西アフリカ、「ブルキナファソ (Burkina Faso)」と「ベナン共和国 (Republic of Benin)」からお送りいたします。

最初はブルキナファソです。

ブルキナファソは昨年訪れた「マリ共和国」の隣に位置する、アフリカの内陸国です。一般的に、ブルキナファソの人は非常にプライドが高く、勤勉であるといわれています。勤勉という意味では、これまでに訪問したアフリカの国々で「ブルキナファソの人はアフリカの日本人である」とか、「建物を建てる時は日本人にやらせるのが一番いいが、日本人がいなくはブルキナファソの人に頼むとよい」という言葉を聞いていました。今回はその期待もあり、ブルキナファソにやってきました。



[クリックで拡大](#)

プライドということでは、旅行者でもいくつか守った方がいいお約束があります。

- ・ 挨拶をおろそかにしない
- ・ 左手で物を渡したり、握手をしたりしない

また、プライドの高さからか「とっつき難い」という印象も受けます。

ブルキナファソに来るために利用した飛行機は、マリ共和国経由のフライトでしたが、機内でも気軽に声をかけ、話をしたり、仲良くなったりした人はなぜかマリ共和国の人ばかり。実際にブルキナファソに来て、あまり、西アフリカの陽気な人々に出会うことは

ありません。逆に、落としたものを拾ってあげたり、チップをあげたりすると、他の国以上に深く（大げさに？）感謝され驚きます。

そうはいつでも、個人的に仲良くなると、やっぱり中身は西アフリカの人。皆さん、親切でいい人なんですけどね (^_^)

ブルキナファソも内陸の国ではありますが、所謂、サハラ砂漠はマリ共和国までで、一部、砂漠化が懸念される地域もありますが、サハラ砂漠の中にあるわけではありません。国内にはボルタ川と呼ばれる大きな川が流れ、この地域では比較的収穫量の高い農業国です。

ちなみに、このボルタ川、ブルキナファソ国内では白ボルタ川、赤ボルタ川、黒ボルタ川の3つに分かれており、隣国のガーナ国内で一つの川として合流し、大西洋に流れ込みます。

農業以外では、古くから金の採掘が盛んな国で、現在も採掘が続けられていますが、採掘量そのものはそれほど多いものではありません。

経済的には決して豊かではなく、国連が発表している後発開発途上国（最貧国、Least Developed Countries）のリストでも、IMF が世界 183 カ国の所得水準、経済発展度を人口 1 人当たりの GDP ベースで発表しているリストでも、下から数えて 1 桁台に位置しています。

歴史は古く、11 世紀に成立したワガドゥグー（Ouagadougou）王国が起源とされています。その後、この地域のお約束ではありませんが、フランスの植民地を経て、1960 年、オートボルタ共和国（オートボルタはボルタ川の上流という意味）として独立。1984 年にブルキナファソ（清廉潔白な人たちの国という意味だそうです）に改名しました。ワガドゥグー（Ouagadougou）の名前は、現在、首都の名前として残っています。

統計を見ると

面積 : 274,200 Km² (日本の面積は 377,915 Km²)

人口 : 17,275,115 人 (2012 年 2 月現在)

人口増加率 : 3.073% (2012 年推計)

出生率 : 1,000 人に対し 43.2 人 (2012 年推計)

平均寿命 : 男女計 54.07 歳 (2012 年推計)

となっています。

宗教は

イスラム教徒 : 60.5%

カソリック教徒 : 19.0%

精霊信仰者 : 15.30%

プロテスタント教徒 : 4.20%

その他 : 0.60%

無宗教 : 0.40%

とされており、イスラム国というわけではありません。

このため、スーパーなどではお酒も、豚肉も、普通に売られています。というより、ブルキナファソの人はビールが大好き。昼間からバーが開いており、老若男女を問わず、ビールを飲みながらひと時を過ごしています。

人種は「モシ族（ワガドゥグー王国を作った部族）」が40%を超え、残りの約60%はグルンジ族、セヌフォ族、ロビ族、ボボ族、マンデ族、フラニ族などで構成されています。

公用語はフランス語ですが、あまり通じません（お前のフランス語力がないからだという突っ込みはなしね（^_^;））。

中学が4年制のフランスと同じ教育システム（小・中・高校：6年・4年・3年）がありますが、就学率があまり高くないため、フランス語を習う機会があまりないようです。このため、90%以上の人は、日常はスーダン系の言語である現地語しか話しておらず、学校でフランス語を習っても使う機会がない人の多くは忘れてしまうそうです。

ブルキナファソに来る機内の中でも、出稼ぎの人でしょうか（ブルキナファソでは国外への出稼ぎは一般的です）機内で配られた自国の（ブルキナファソの）入国カードに書かれている言葉（フランス語と英語）が理解できず、頭を抱え込んでいる人が沢山いました（プライドが高いため、客室乗務員や周りの人に聞かないそうです）。

入国審査場では、審査官が白紙で出された入国カードに一つ一つ確かめながら代筆するため、審査に時間がかかること、かかること。

まあ、ここはアフリカ、のんびり行きましょう。

（つづく）

■ 編集後記

「パソコンの遠隔操作」という全く本人が知らないうちに犯罪の容疑者にされるという恐ろしい犯罪が登場した今日、文明の利器の必要性について考えさせられる毎日です。

携帯電話やパソコンを介してのコミュニケーションのあり方が、人間としての、日本人としての大切な「心の栄養」を奪っている様に思われます。携帯電話を見ながらホームや階段を歩く人がいなくなる日が早く来ることを願っています（KT）。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp